

東証グロース
4571

事業計画及び成長可能性 に関する事項

NANO MRNA 株式会社

2024年6月28日（金）



“Robust foundation for
Drug Discovery Concert”



Global leader for “mRNA for health”

Mission

Robust foundation for Drug Discovery Concert

mRNAの未来を協創する

Vision

mRNA medicine IP generator as a platform company that connects drug discovery seeds with medical and drug development needs.

創薬シーズと医療・開発ニーズをつなぐプラットフォームとして、
mRNA医薬のIP創出とライセンスアウトのサイクルを確立します。

会社概要



| | |
|---------|---|
| 設立 | 1996年6月14日 |
| 上場市場 | 東京証券取引所 グロース市場 (2008年3月5日 東証マザーズ上場) |
| 所在地 | 本社 東京都中央区港区 研究所 神奈川県川崎市川崎区殿町 |
| 子会社 | 株式会社 PrimRNA NanoCarrier US Danville, VA |
| 資本金 | 142 百万円 (2024年3月31日現在) |
| 発行済株式総数 | 70,151,558 株 (2024年3月31日現在) |
| 役職員 | 28名 (2024年3月31日現在) |

NEW

<経営チーム> 2024年6月27日～

| | |
|------------|---|
| 代表取締役社長CEO | 秋 永 士 朗 |
| 取締役会長 | 松 村 淳 |
| 副会長 | 飯 野 智 (株式会社ウイズ・パートナーズ 代表取締役社長CEO) |
| 取締役 (社外) | 長谷川 由 紀 (株式会社ウイズ・パートナーズ ヘルスケアインベストメントヘッド) |
| 取締役 (社外) | 黒 圖 肇 |
| 監査役 | 松 山 哲 人 |
| 監査役 (社外) | 松 尾 隆 (株式会社オートバックス南日本販売 相談役) |
| 監査役 (社外) | 和 田 成一郎 (株式会社ウイズ・パートナーズ マネージング・ディレクター) |

Global leader for “mRNA for health”



ビジネスモデル

mRNA創薬の IP Generator

mRNAの創製および非臨床開発を行い、開発/販売権を他社へライセンスアウト
契約一時金、マイルストーンや上市後の販売高に対するロイヤリティを受領

シーズから非臨床に特化

研究

非臨床試験

医薬品開発のステージごとの成功確率※ 69%

※NATURE REVIEWS DRUG DISCOVERY, Vol.20.,203-214, March 2010

臨床 (第 I ~ III 相) 承認/上市

PI:54% PII:34% PIII:70% 91%

12%

P1から上市までの成功確率：12% ⇒ 臨床開発開始前にライセンスアウト

創薬におけるグループ企業との役割分担



グループ企業で強力な創薬バリューチェーンを構築



NANO MRNA :

- 分子標的/疾患を選定 → mRNAデザイン/DDSをデザイン → 薬理試験、動態・分布、初期毒性試験を実施 → 開発候補および知的財産を創製
- 治験申請用パッケージはクライアントの希望に応じて作成
- 治験実施前段階でライセンスし、収入を獲得

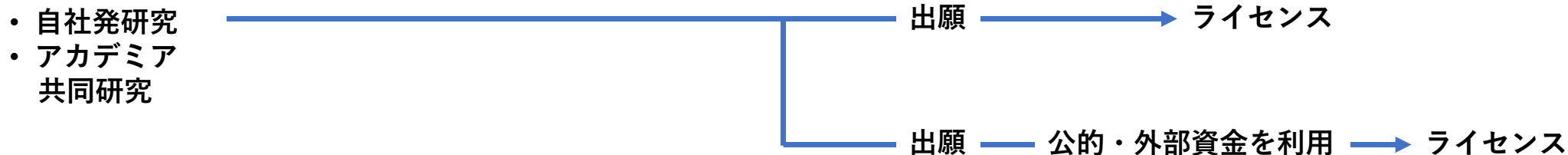
導出までの種々のパターン（受託型が増加傾向） **NEW**



①協業型



②創薬ベンチャー型



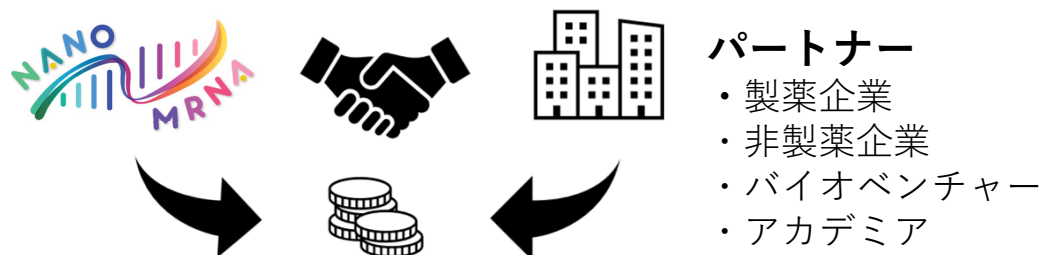
③受託研究型



収益モデル



協業型・創薬ベンチャー型事業



バリューチェーン



花王/AMED/SCARDAなど



IP導出

グローバル製薬企業などへ導出

1件 想定 30~50億円程度

+

販売ロイヤリティ



IP創出費用
1件 想定4~8億円程度

NEW

受託研究型事業



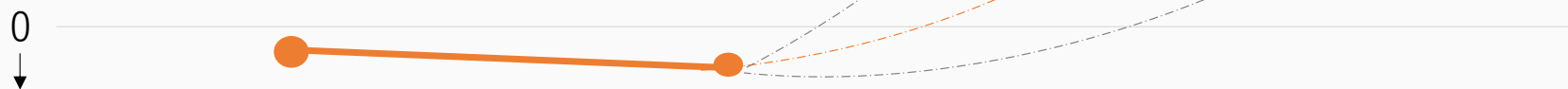
mRNA医薬の研究開発を受託
(mRNA設計~非臨床/臨床開発など)

1件 想定 数千万~数億円程度

mRNA創薬ビジネスの収益イメージ



収益イメージ
 3年後から、ライセンス一時金を受領
 ライセンス数の増加に伴い収益が期待できる



グラフについてはイメージとして表示しており、必ずしも上記イメージ通りに成長することを約束するものではありません。

NEW

| | 2024年3月期 (実績) | 2025年3月期 (予定) | 2026年3月期 (予定) |
|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 実行PJ数 (累計) | 9 | 12 | 14 |
| IP創出数 (累計) | 0 | 3 | 5 |
| ライセンスアウトPJ数 | | | 2 |
| 受託型PJ数 (累計) | | 2 | 8 |

- IP創出割合：3割 ライセンス確率：2割 と想定
- 開発資金の調達金額が想定を下回った場合、当初想定のパイプラインの開発着手ができず、事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

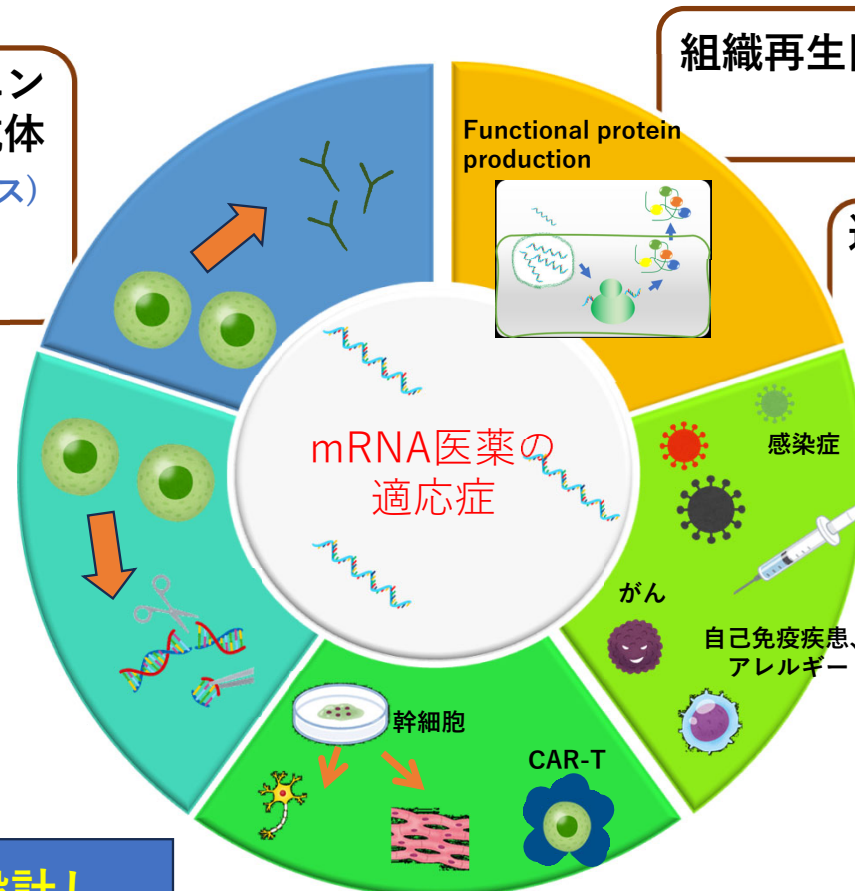
Global leader for “mRNA for health”



mRNA医薬開発市場環境

mRNA医薬：広範な適応 — 世界現状：2024年 —

NEW



mRNAエンコード抗体
 mRNA-1944 (チクングニアウイルス) P1 POPA
 BNT-142 (CD3/CLDN6) P1

組織再生医療 心血管系治療
 AZD8601 VEGF P2 POC
 mRNA-0184 Relaxin P1

遺伝性疾患
 mRNA-3927プロピオン酸血症 P2 POC
 mRNA-3705 メチルマロン酸血症 P2 POC

ゲノム編集
 NTLA-2001 ATTRアミロイドーシス P2 POC

感染症：
 mRNA-1010 (インフルエンザ) 等が近々上市見込み

ワクチン

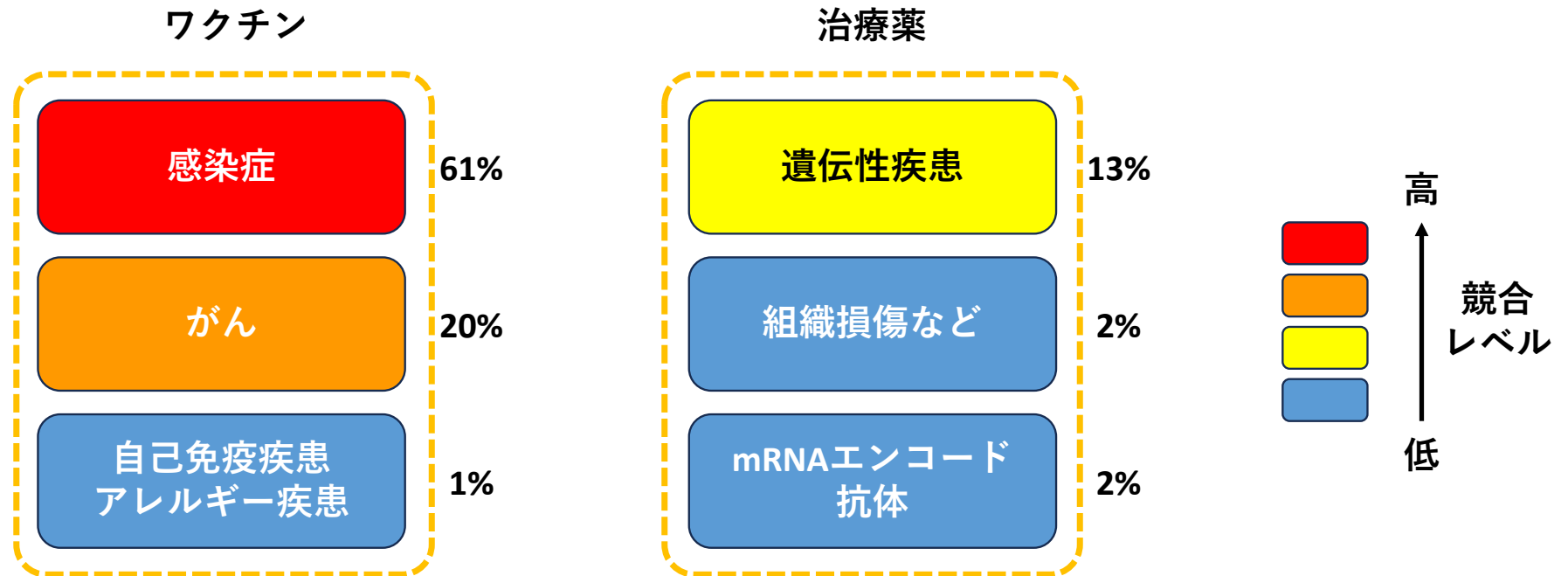
がん：
 mRNA-4157 ネオ抗原ワクチン Keytruda併用 P3 (メラノーマ他)

自己免疫疾患、アレルギー：
 免疫寛容誘導 (“逆ワクチン”) の開発進行中

標的に対し適切なmRNAを設計し、標的組織を考慮したDDSを用いれば成功確率が高く効率的な研究開発を進めることが可能

細胞医療
 様々なmRNA CAR-Tなどが開発中

Moderna、BioNTech、Arcturus、CureVacのパイプライン分析 NEW



4社合計: 82プロジェクト
図中の%は、82プロジェクトに対する百分率

- 感染症ワクチンが最も競合度が高く、がんワクチン、遺伝性疾患治療薬がこれに続く
- 自己免疫疾患・アレルギー疾患に対する免疫寛容誘導ワクチンや組織損傷などに対する再生医薬などは競合度が低い

Global leader for “mRNA for health”



パイプライン

パイプライン **NEW**



| 創薬領域 | 疾患 | 分子標的 | シード | 非臨床 | | | 臨床P1 | パートナー |
|------|-------------|--------|-----|-----|--|--|-------------|-------|
| 組織再生 | 変形性膝関節症 | RUNX1 | | | | | PrimRNA | |
| | 皮膚疾患 | F | | | | | | |
| | 眼科疾患 | C | | | | | X社 | |
| ワクチン | アレルギー疾患 | B | | | | | 花王 | |
| | 感染症 | A | | | | | クラフトン/MAB組合 | |
| | アレルギー疾患 | G | | | | | 花王 | |
| | 自己免疫疾患 | H | | | | | 花王 | |
| がん | 膠芽腫 (ASO) | TUG1 | | | | | DL1 | 名古屋大学 |
| | 乳がん (siRNA) | PRDM14 | | | | | DL4 | 慶応大学 |

DL: Dose Level

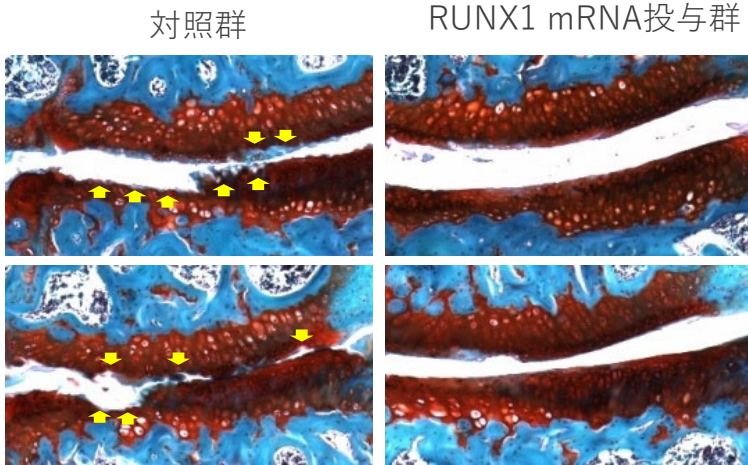
RUNX1 mRNA：転写因子RUNX1のmRNA/DDS製剤



対象疾患：変形性膝関節症（疾患修飾薬）

- 軟骨の再生を促進する転写因子RUNX1をコードするmRNAのDDS製剤を膝関節内に投与
- 東京医科歯科大学・位高啓史先生との共同研究開発(AMED CiCLEに採択)
- 自社特許保有

RUNX1 mRNA治療後の膝軟骨組織像



対照群では関節軟骨表面のめくれ・変性・摩耗が認められる一方、RUNX1 mRNA投与群では、抑制されている

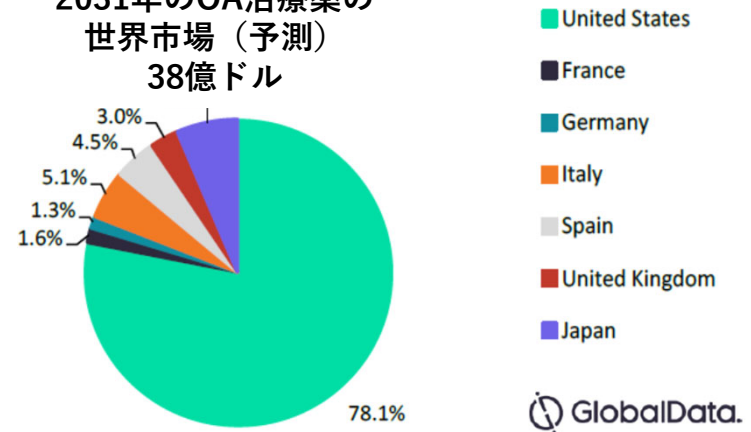
NEW

2024年度2H 医師主導治験開始予定

OA市場の成長ドライバー

- 新規作用機序や疾患修飾作用を有する薬剤が上市により、治療レジメンが変化し、市場が拡大する。
- 高齢化および肥満の広がりにより、OA患者数は今後も増加し続ける。
- 画像診断技術の向上が、疾患修飾薬の開発を促進し、早期介入を促す。
- その他

2031年のOA治療薬の世界市場（予測） 38億ドル





花王株式会社との包括的共同研究

2023年11月14日に発表した「mRNA医薬品創薬に向けた包括的共同研究契約」に基づき、アレルギー領域において免疫寛容誘導ワクチン¹⁾の共同研究を進めている。最初の共同プロジェクトはステージアップが決定し、これに続く複数のプロジェクトを開始した。

1)免疫寛容誘導ワクチン：自己免疫疾患やアレルギーなどの免疫異常による疾患に対し、原因となっている抗原に対して免疫寛容を誘導するワクチン

AMED先進的研究開発戦略センター(SCARDA)事業

名古屋大学発ベンチャーCrafton Biotechnology株式会社を研究代表機関として、令和4年10月に「重点感染症にも応用可能性が見込める新規モダリティの研究開発」に採択された課題に、次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB組合・神戸)と共に参画している。NANO MRNAは今年度から非臨床試験を担当し、マイルストーンをクリアする成績が得られた場合は臨床試験(Phase I)も担当予定である。

花王株式会社との包括共同研究契約締結



花王と NANO MRNA mRNA 医薬品創薬に向けた包括共同研究契約を締結

NEW

2023年11月14日開示



NANO MRNA 株式会社(代表取締役社長 秋永士朗、以下 NANO MRNA)と花王株式会社(代表取締役社長 長谷部佳宏、以下花王)は、花王が独自開発した免疫制御技術「SNAREVAX(スネアボックス)™」*1 を用いた、メッセンジャーRNA (mRNA) 医薬品の創薬に向けた包括共同研究契約を締結しました。

*1 抗原に対して特定のタンパク質を融合した核酸配列設計を採用することで、その抗原に対する免疫応答を促進することが期待される技術のこと。「SNAREVAX™」は花王が商標登録出願中です。

花王はこれまで、界面科学や生命科学などに関する長年の研究資産を活用し、清潔・健康・美の実現に向けたさまざまな製品開発を行ってきました。今回、生命科学領域の研究を深化させ、mRNA 医薬品に応用可能な免疫制御技術を生み出しました。

NANO MRNA は、医薬品開発における豊富な知見を持つ mRNA 医薬品創薬のパイオニアとして、mRNA 医薬品候補の創出に特化した事業を推進しています。新たな技術を持つパートナーとの協働等による創薬活動を通じ、人々が必要とする mRNA 医薬品を届けることをめざしています。

花王は、新技術を活かすパートナーとして NANO MRNA に注目しました。mRNA 医薬品で世界の患者へ貢献したいという両社の思いが合致し、2022 年から、新規 mRNA 医薬品開発に向けた SNAREVAX™ の有効性検証を共同で実施。本技術が優れた免疫制御機能を有することを確認してきました。

本包括共同研究では、SNAREVAX™ を用い、アレルギー疾患をはじめとした領域において画期的な mRNA 医薬品創薬に向けた研究開発を推進します。アレルギー疾患は世界的な社会課題の 1 つで、罹患すると著しい QOL 低下を招くだけでなく、喘息の発作や食物アレルギーによるアナフィラキシーなど重篤な症状を引き起こすこともあります。世界アレルギー機構(WAO)によると、世界では、2.4~5.5 億人が食物アレルギーに罹患しており、世界の子供の 40~50% が 1 つ以上のアレルゲンを持つと報告されています。また、先進工業国では 50 年以上にわたりアレルギー疾患の有病率が上昇し続けています*2。

*2 WAO White Book on Allergy 2013 update

今後、両社は、既存の医薬モダリティ(治療法)では十分な治療効果を得られない疾患に悩む人々への貢献をめざし、研究開発を推進していきます。

TUG1 ASO：長鎖非翻訳RNA TUG1に対するアンチセンス核酸/DDS製剤



対象疾患：膠芽腫（ファースト・イン・クラス抗がん剤）

- がん細胞の異常増殖に伴う複製ストレスを増大させることにより細胞死を誘導する
- 名古屋大学医学部・近藤豊先生/斎藤竜太先生との共同研究開発
AMED革新がん医療実用化事業(2026年3月まで)、臨床研究治験推進研究事業(2027年3月まで)採択
- 強固な知的財産権(TUG関連特許独占ライセンス済+YBCポリマー自社特許)

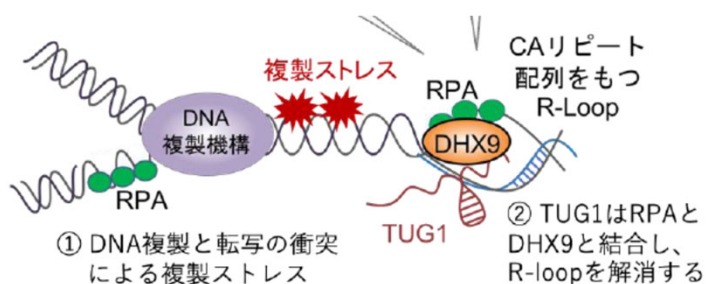
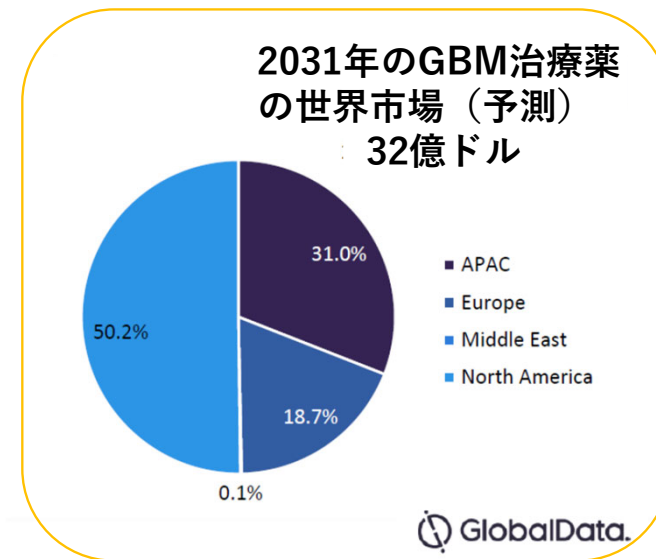
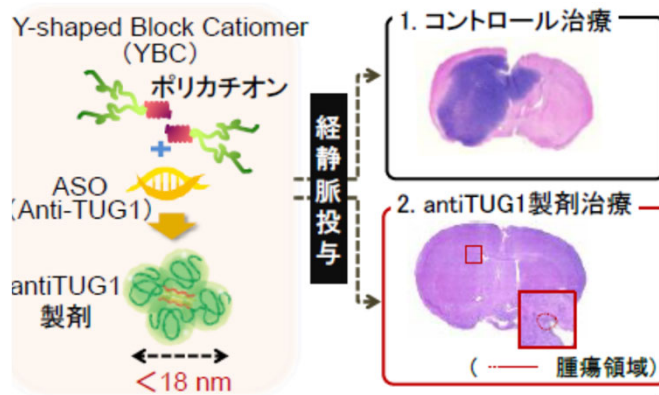


図2 複製ストレスによって発現上昇するTUG1はR-loopを解消する



NEW

医師主導治験：2024年2月に最初の症例登録を完了し症例登録および投与継続中
実施施設：名古屋大学病院、京都大学病院、国立がん研究センター中央病院

PRDM14 siRNA (NC-6100) : siRNA/DDS製剤 **NEW**



対象疾患：HER2陰性転移性乳がん

- 乳がんなどに高発現する転写因子PRDM14を阻害するsiRNA医薬
- 慶応義塾大学等との共同開発
- YBCポリマーによるsiRNAのDDS製剤

2020年9月：医師主導第I相医師主導臨床試験開始
PI がん研有明病院・高橋俊二先生

2024年6月：第28回がん治療分子標的学会学術総会にて経過報告

- 安全性：HER2陰性転移性乳がん患者10例に投与され、重篤な副作用は確認されず大きな問題はなかった
- 抗腫瘍効果：10例中6PD、4SD。最高用量の1例で長期SDが見られ、無増悪生存期間は25-180日(中央値45日)
- 薬物動態：PRDM14 siRNA/YBCポリマー複合体投与の投与量の増加に伴うPRDM14 siRNA曝露の増加が確認。最高用量では非臨床成績から外挿される有効血漿中濃度に到達、オリゴ核酸医薬の薬物送達システムとしてのYBCポリマーの臨床における有用性が示唆

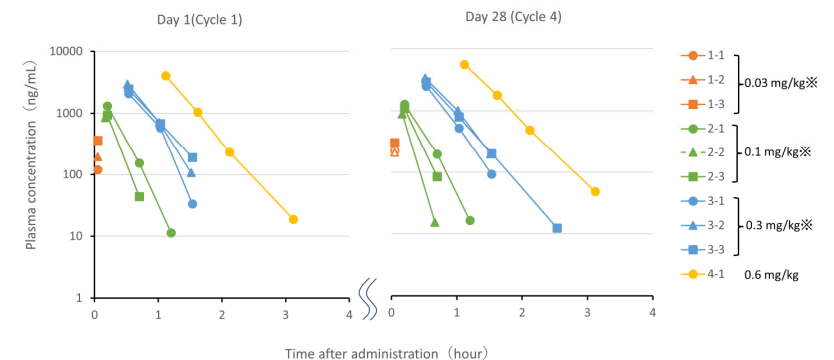
HER2陰性乳がん

11人に1人の女性が罹患する（厚生労働省人口動態調査）と言われる乳がん中でHER2陰性乳がんは2/3を占め（ESMO OPEN 2023）、エストロゲン受容体（ER）陽性群とER陰性群に分類され、後者はトリプルネガティブ乳がん（TNBC）と呼ばれる。

HER2陰性ER陽性乳がんおよびTNBCは共に標準治療後の再発患者での生存率が著しく低く、新たな治療法が求められている。

乳がん患者に対するPRDM14を標的とした核酸医薬 医師主導第I相試験

PK血漿中濃度推移（Day 1とDay 28の比較）Logarithmic plot



※0.03 mg/kg, 0.1 mg/kg, 0.3 mg/kgのデータは安定性期間外のため参考値

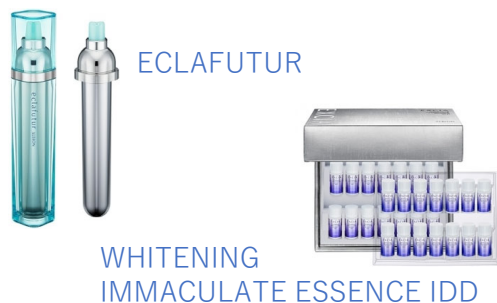
Global leader for “mRNA for health”



販売事業

医薬部外品承認原料

配合例) 共同開発：株式会社アルビオン



2018年 International Investigative Dermatology

角質
表皮
真皮

ミセル溶液

疎水性
蛍光物質
塗布
24hr後

飽和溶液

- ✓ ミセル化により皮膚に対する浸透性を高める

コムレクス® 耳科用液1.5%

耳鼻科領域のスペシャリティファーマ
セオリアファーマとの共同開発

2023年6月8日発売

製造販売元：セオリアファーマ

- ✓ 適応症：中耳炎・外耳炎
- ✓ 本製品の有効成分であるレボフロキサシンは
オフロキサシンの一方の光学活性体で約2倍
の抗菌活性
- ✓ 有効成分含有量は、オフロキサシン耳科用液
0.3%*の5倍

mRNA医薬品 IP Generator



2024年3月期 通期決算概要
2025年3月期 事業計画

2024年3月期 損益計算書 NEW



| (単位：百万円) | 2023年3月期 連結実績 (累計) | 2024年3月期 連結予想 A (累計) | 2024年3月期 連結実績 B (累計) | 増減 B - A |
|-----------------|--------------------------|----------------------------|----------------------------|-------------|
| 売上高 | 202 | 135 | 135 | 0 |
| 売上原価、販売費及び一般管理費 | 1,448 | 1,115 | 999 | ▲116 |
| 内：研究開発費 | 1,120 | 758 | 647 | ▲111 |
| 営業（損失）利益 | (1,246) | (979) | (864) | 115 |
| 営業外収益/（費用）ネット | 141 | 96 | 114 | 18 |
| 経常（損失）利益 | (1,104) | (883) | (749) | 134 |
| 当期（純損失）純利益 | (1,310) | (945) | (780) | 165 |

業績予想からの研究開発費減少要因

パイプラインPRDM14、RUNX1他の研究開発費発生時期の期ずれ等

2024年3月期 貸借対照表 NEW



| (単位：百万円) | 2023年3月31日 (A) | 2024年3月31日 (B) | 増(減) (B)-(A) |
|------------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 現預金、運用債券等（手許流動性） | 4,443 | 4,277 | ▲166 |
| その他流動資産 | 225 | 184 | ▲41 |
| 固定資産 | 1,115 | 609 | ▲506 |
| 資産合計 | 5,784 | 5,071 | ▲713 |
| 転換社債型新株予約権付社債 | 1,108 | 1,108 | 0 |
| その他負債 | 422 | 540 | 118 |
| 純資産 | 4,253 | 3,421 | ▲832 |
| 資本金及び資本剰余金 | 5,618 | 5,665 | 47 |
| 利益剰余金 | (1,371) | (2,151) | ▲780 |
| その他有価証券評価差額金 | 4 | (108) | ▲112 |
| 新株予約権 | 2 | 15 | 13 |
| 負債・純資産合計 | 5,784 | 5,071 | ▲713 |

実施中の資金調達の概要（リファイナンス及び新規発行）



2023年1月26日発表

mRNA医薬の研究開発を推進するための資金として

➤ 第6回無担保転換社債型新株予約権付社債

| | | |
|--------|---|--|
| 予約権総数 | : | 39個 |
| 潜在株式数 | : | 普通株式 7,200,754株 |
| 転換価額 | : | 154円 |
| 資金調達額 | : | 0円（第5回無担保転換社債型新株予約権付社債39個（額面11.2億円）を出資） ⇒ 第5回無担保転換社債型新株予約権付社債のリファイナンス |
| 資金使途変更 | : | mRNA医薬品開発の推進（950百万円） TUG 1 医薬の治験・導出活動費用（200百万円） |

割り当て先：
THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合
（株式会社ウイズ・パートナーズ）

➤ 第20回新株予約権

| | | |
|----------|---|--|
| 予約権数 | : | 102,642個 |
| 潜在株式数 | : | 普通株式 10,264,200株 |
| 行使価額 | : | 154円 |
| 現在までの調達額 | : | 発行分0円（第5回無担保転換社債型新株予約権付社債1個（額面28百万円）を出資） ⇒ <u>これにより第5回無担保転換社債型新株予約権付社債の残存は0</u> 行使分0円（全て行使された場合の調達額1,580百万円） |
| 支出予定期間 | : | ～2025年 12 月 |
| 資金使途 | : | mRNA医薬品開発の推進（910百万円） TUG 1 医薬の治験・導出活動費用（155百万円） 革新的mRNA技術獲得及びM&A（500百万円） |

割り当て先：
THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合
（株式会社ウイズ・パートナーズ）

実施中の資金調達の概要（新規発行）



2023年5月26日発表

関係強化による新規mRNA医薬の研究開発を推進するための資金として

➤ 第21回新株予約権

予約権数 : 23,585個
潜在株式数 : 普通株式 2,358,500株
行使価額 : 212円
現在までの調達額 : 発行分 6,839,650円
行使分0円（全て行使された場合の調達額 500百万円）
支出予定期間 : ~2028年 6月
資金使途 : mRNA医薬品開発の推進 (500百万円)

割り当て先 : IPガイア

予約権数 : 23,585個
潜在株式数 : 普通株式 2,358,500株
行使価額 : 212円
現在までの調達額 : 発行分 6,839,650円
行使分0円（全て行使された場合の調達額 500百万円）
支出予定期間 : ~2028年 6月
資金使途 : mRNA医薬品開発の推進 (500百万円)

割り当て先 : アクセリード

調達資金充当に関する説明

※2024年5月31日時点



| 資金調達 | 調達額 | 用途 | 充当額 | 使用期間 |
|-------------------------|----------|---|--------|----------------------|
| 第5回無担保転換社債型 新株予約権付社債 | 1,150百万円 | ・ mRNA医薬品開発の推進 | 260百万円 | 2023年2月 ～2025年12月 |
| | | ・ TUG1医薬の治験・ 導出活動費用 | 210百万円 | |
| 第6回無担保転換社債型 新株予約権付社債 | 0円 | ・ mRNA医薬品開発の推進 ・ TUG1医薬の治験・ 導出活動費用 | 0円 | 2023年2月 ～2025年12月 |
| 第20回新株予約権 | 0円 | ・ mRNA医薬品開発の推進 ・ TUG1医薬の治験・ 導出活動費用 ・ 革新的mRNA技術獲得及びM&A | 0円 | 2023年2月 ～2025年12月 |
| 第21回新株予約権 | 0円 | ・ mRNA医薬品開発の推進 | 0円 | 2024年6月 ～2028年6月 |

NEW

事業計画(2025年3月期) **NEW**



| (単位：百万円) | 2024年3月期実績 (連結) | 2025年3月期予想 (連結) | 増減 |
|-----------------|--------------------|--------------------|------|
| 売上高 | 135 | 51 | ▲84 |
| 売上原価、販売費及び一般管理費 | 999 | 1,294 | ▲295 |
| 内：研究開発費 | 647 | 929 | ▲282 |
| 営業（損失）利益 | (864) | (1,242) | ▲378 |
| 経常（損失）利益 | (749) | (1,192) | ▲443 |
| 当期（純損失）純利益 | (780) | (1,206) | ▲426 |

2025年3月期の計画

売上高

化粧品材料供給等

| 主な売上構成比 | 2024年3月期実績 | 2025年3月期予想 |
|-----------|------------|------------|
| 商品/原料等の販売 | 66% | 100% |
| 共同研究契約 | 34% | — |

研究開発費

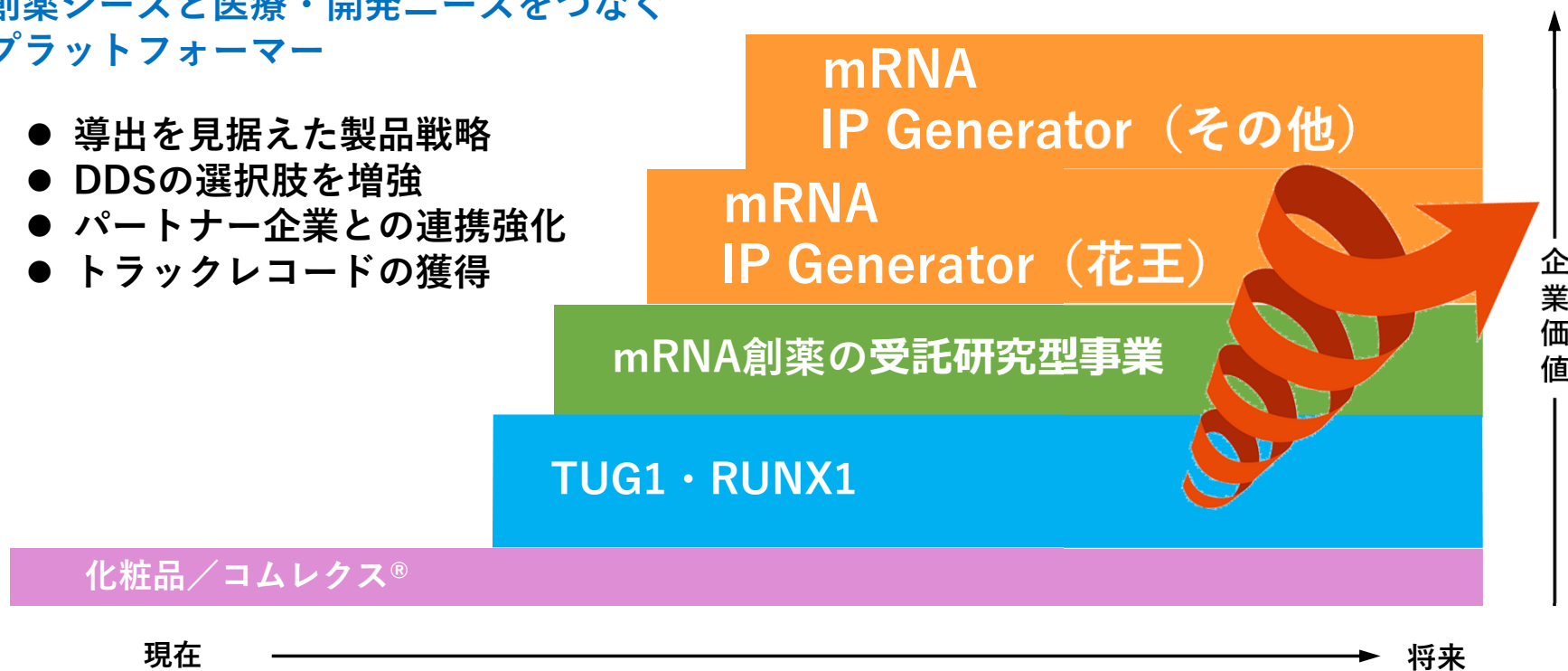
- ① 花王との共同研究などmRNAシーズの探索
- ② アクセリードグループ及びIPガイアとの連携強化
- ③ 医師主導治験の実施
 - RUNX1 mRNA (AMED CiCLE)
 - TUG1 ASO (AMED 革新がん、臨床研究・治験推進研究事業)

| 主な研究開発費構成比 | 2024年3月期実績 | 2025年3月期予想 |
|-----------------|------------|------------|
| mRNAパイプライン | 36% | 53% |
| mRNA以外の核酸パイプライン | 32% | 17% |

Global leader for “mRNA for health”

mRNA医薬を中心に
創薬シーズと医療・開発ニーズをつなぐ
プラットフォーマー

- 導出を見据えた製品戦略
- DDSの選択肢を増強
- パートナー企業との連携強化
- トラックレコードの獲得



mRNA医薬品 IP Generator



事業のリスク

中長期にわたる影響度の高い主なリスクへの対応策



| 主なリスク | |
|----------|--|
| パイプライン開発 | 新規パイプライン創製に関するリスク 創薬シードが順調に新規パイプラインへ推移しない可能性 |
| | 非臨床ステージに進捗したパイプラインに関するリスク 開発が順調に進捗しない可能性、および、当社が意図しない提携解消、ライセンスアウトに至らない、又はライセンスアウトできたとしても当社の望む契約条件に満たない等の可能性 |
| 資金調達 | ライセンス導出までには複数年の研究開発投資を要し、定常に達するまで営業キャッシュ・フローがマイナスの状態が継続 |
| | 研究開発が計画通りに進捗する保証はないため、研究開発の遅延等が生じ、研究開発資金に不足が予想された場合には新たな資金調達が必要 |

| リスク対応策 |
|---|
| <p>創薬シードは、製薬企業のニーズを十分に把握し、オープンイノベーションも最大限に活用し幅広いソースから質の高いシードを定常的に確保することでリスク低減に努めております。</p> <p>ポートフォリオマネジメントの徹底による経営資源の効率的投入、プロジェクト管理、医療ニーズなどの変化に敏感に対応した方針および優先順位の見直し、初期段階からの提携先探索等によりリスクの低減に努めております。</p> <p>シードから開発候補に至る確率向上に資する技術導入を、共同研究、提携、M&A等により柔軟に行うとともに、総合的な創薬体制を活用し開発候補に至らずとも収益が得られる受託型事業を増加させるなどリスクの低減に努めます。</p> <p>上記の以外に、公的な競争資金等の積極活用も行っております。また、資金調達が必要となった場合に備え、効果的かつ効率的な資金調達手段を常に検討しております。</p> |

※ その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。



ありがとうございました

本資料は通期決算発表後（6月）および事業計画を見直した際に最新の内容を開示いたします。

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

また、医薬品（開発品）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。

NANO MRNA株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-4791